

1. 大粒、多収で製あん適性が優れた白小豆新品種「岡山ADZ1号」の育成

[要約]

在来種「高梁白」より成熟期が2日早く、大粒で収量性が高く、煮熟適性及びつぶあん加工適性が優れる「岡山ADZ1号」を育成した。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話086-955-0275

[分類] 技術

[背景・ねらい]

岡山県で栽培されている白小豆は在来種であり、生育や品質にばらつきがあり収量性が低い。そこで、白小豆のブランド力を強化するとともに産地の活性化を図るため、収量性と加工適性の優れた白小豆新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 1990年に「高梁白」を母、「新備中大納言」を父として交配し、系統選抜法によって育成した品種である。
2. 成熟期は「高梁白」より2日、「夢大納言」より3日早い。主茎長は「高梁白」や現地在来系統より短く倒伏・蔓化しにくい(表1)。
3. 百粒重(4.2mm以上)は15.2gで、「高梁白」より大きい。粒は円筒形で、現地在来系統よりバラツキが少ない。精子実重は「高梁白」や現地在来系統より多く、「夢大納言」と同程度である(表1、図1)。
4. 煮熟適性が優れ、つぶあん加工においては「風味」、「つや」、「舌触り」に優れる(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 適応地帯は、高冷地を除いた県下全域とする。
2. 収量性については地域変動が予想されるため、現地適応性試験を要する。
3. 品種登録出願を申請中である。
4. 本品種は「岡山ADZ1号」として品種登録(2017年4月12日)され、「備中夢白小豆」として商標登録(2017年9月29日)された。「追記2018年9月」

[具体的データ]

表1 「岡山ADZ1号」の生育・収量特性（育成地、笠岡市）

育成地（2014～2015年） ^z							笠岡市（2015年） ^y					
品種・ 系統名	成熟期 （月/日）	倒伏 ^x （0～5）	蔓化 ^x （0～5）	主茎長 （cm）	百粒重 （g）	精子実重 （kg/10a）	品種・ 系統名	主茎長 （cm）	同左 変動係数	粒長 /粒幅	同左 変動係数	精子実重 （kg/10a）
岡山ADZ1号	11/7	3.3	0.0	59	15.2	292	岡山ADZ1号	45	0.233	1.44	0.064	294
(標)夢大納言	11/10	3.8	0.0	63	21.9	309	現地在来系統	55	0.341	1.35	0.070	253
(比)高粱白	11/9	4.1	0.5	70	14.0	254	(白小豆)					

^z栽培概要（育成地）：播種期7月30日、条間80cm、株間20cm、1本植え/株

^y栽培概要（笠岡市）：播種期7月28日、条間75cm、株間25cm、2本植え/株

^x成熟期の調査。数字が大きいほど、程度が大きいことを示す



図1 白小豆品種・系統の子実比較

左：「高粱白」 右：「岡山ADZ1号」

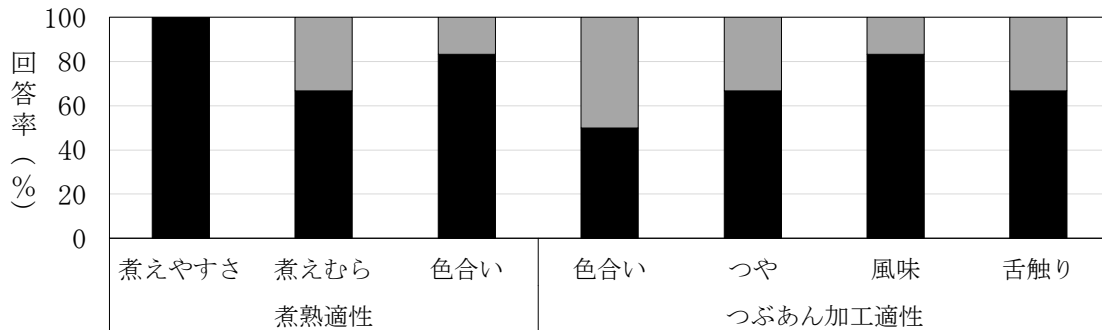


図2 実需による製あん適性（つぶあん）

■：良い、 □：普通、 □：悪い

注) 使用している白小豆と比較した評価（6者）

[その他]

研究課題名：特産豆類の育成と良品生産技術の確立

収量及び加工適性に優れた白小豆新品種の育成強化

予算区分：県単、助成（日本豆類協会）

研究期間：1990～1996年度、2002年度、2012～2015年度

研究担当者：平井 幸、渡邊丈洋、森 義雄